

## トピック 学校現場で広がる新聞教育

全小中学校図書館に新聞予算計上 15億円、NIEに弾み (徳島新聞2011/12/26)

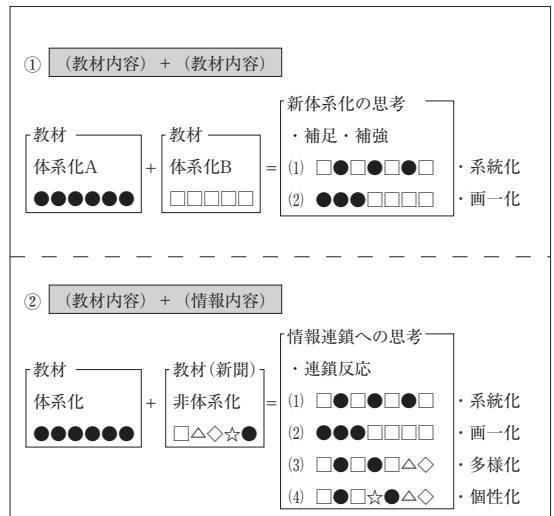
**ニュース解説** 社会的動物である人間は、そのコミュニケーション手段として言語活動を主体としている。今回の学習指導要領の改訂において、「生徒の言語活動の充実」がいっそう重視されるようになった。そして、その具体的な活動は「学校図書館の利活用」(第1章第4の2-11)にも示されている(学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実すること)。

これは教科・道徳等を通しての思考力や判断力、表現力等を伸長する観点でもある。近年注目されてきた新聞教育の一環として、新聞を図書館に置く費用が全国的な規模で計上されたことは画期的である。

今後は各教師が新聞の活用方法を模索しながら、生徒の知的活動や人間形成をはかる指導展開をすることが肝要である。そこに図書館との利活用の相互作用が促進される鍵がある。

**授業での活用** 多くの新聞使用の授業過程は、学習の展開期や整理期に活用が集中している傾向にあるとともに、学習理解のための補完的資料として使用されている。しかしこれは新聞のもつ社会性を活用してはいるものの、他の学習資料とちがいはあまりない。だが、図1の導入期で活用することで、新聞資料としての教育価値が顕著に見い出されることが数々の授業で検証された。これ

図2 情報連鎖



を「情報連鎖」と定義する。学習は既得の学習知と体験知のなかで、新しい知識と経験が結合することで行われる。この時に相互の思考格差のところで、疑問や興味・関心等が生じて学習課題の追究が主体化してくるのである。図2のように、体系化された既習学習に、新聞資料による体系化されていない情報が混入された場合は、自ら系統化しようとする自己教育力が必要となる。ここに通常の教科書中心、または他資料での授業とは異なる思考概念が組織されるのである。まさにこれが「新しい学力観」に沿う新聞教育の独自性である。

その際、新聞のもつ他のメディアとのちがいを前提に準備することが、多大な教育効果をあげる一助となろう(例えば解説性、一覧性などに優れる点)。

これらの利点をNIEのなかで生徒・児童に伝えていくことは「情報の主体化」と「新聞は生涯学習の教科書」という学校外、さらに卒業後を見据えた指導・支援から必須の学習視点である。

(中華人民共和国同済大学客員教授 勝俣得男)

図1 導入期の新聞使用

| 段階           | 教師                         | 生徒  | 形態 | 評価等(留意点)      |
|--------------|----------------------------|---|----|---------------|
| 導入           | 新聞教材の提示                    | 情報の理解   | 全体 | 診断的評価         |
| 自分なりの考えをもつ過程 | ・思考因子の形成<br>○情報連鎖<br>教材+情報 | ○情報の理解<br>国際化・情報化・個性<br>※時事キーワード形成<br>動的視点からの思考 |    | ○動的社会科<br>に変容 |
| 展開           | 主発問(学習課題)                  |   |    | 中間目標          |

フィードバック